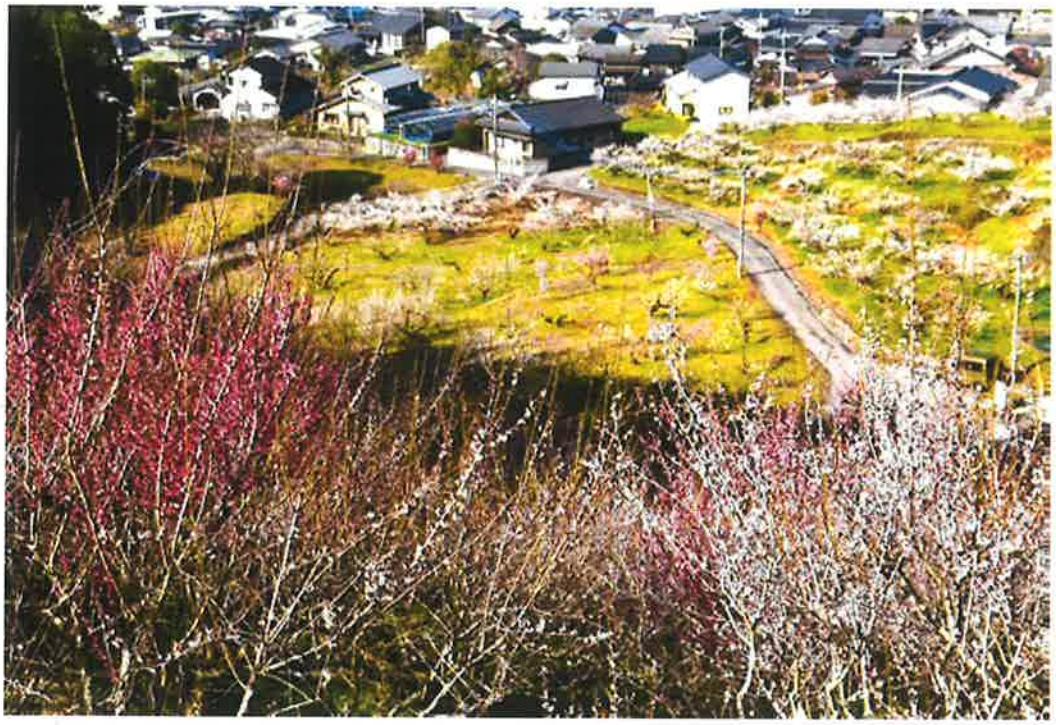
光友地区　地域振興計画

み　緑あふれる自然

つ　つなぎあう人

と　ともに住みよい地域

も　目標に向かって進もう！



令和５年（2023 年）４月

光友地区地域振興会議

光友地区　地域振興計画　目次　2023年～2032年

1. はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2. わたしたちのまち　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

（1）光友地区の概要
（2）光友地区の人口推移
（3）光友地区全図

3. アンケート結果と自由意見　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

4. 各種団体ヒアリング結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

5. アンケート及びヒアリングから見えてくるもの　・・・・・・・・・・・21

6. 光友地区のまちづくり基本方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

7. 策定委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

１．はじめに

　光友地区地域振興会議は平成１８年に発足し、光友地区が住みよい町となることを目指し、これまで様々な事業を行ってきました。これまでに、社会情勢の急激な変化にともない、八女市との編入合併（平成２２年２月１日）や、光友小中学校と辺春小中学校の統合（立花小中学校）など、光友地区を取り囲む生活環境も大きく様変わりし、今後も大きな変化が想像できます。平成２５年４月に「光友地区地域振興計画」を作成し、この計画をもとに事業を進めてきましたが、計画策定から１０年を経過するにあたり、新たな光友地区のまちづくり振興計画を策定いたしました。昨年７月に、光友地区振興計画更新策定委員会（３１名）を結成し､議論を進めてまいりました。今回も光友地区の全世帯からの「まちづくりアンケート」を基礎資料として、より多くの方々からの意見を反映した振興計画を策定致しました。これからの１０年間の振興計画となりますので､この計画に基づいて、住みよい光友地区のまちづくりに向かってともに進みましょう。

光友地区地域振興会議

２．わたしたちのまち

（１）光友地区の概要

光友地区の地形としては、立花町の中央にある飛形山（４５０ｍ）の北側裾野にあたり、北側を流れる矢部川と中央を流れる辺春川の流域に集落が点在している。温暖で暮らしやすい地域ではあるが、近年は異常気象の影響もあり、河川の氾濫や山間地域の土砂災害が心配されることも多くなってきている。

経済面では、以前は山間部で栽培されるミカン、キウイフルーツや平野部でのイチゴ、ナス栽培による農業が主体ではあったが、農業経営の低迷の影響もあり、農業経営者が激減しており、多くは近隣地域への働きに行く人が増加している。これにより、旧八女市、筑後市、広川町、久留米市等への転出が増え、人口減が進み、少子高齢化が進みつつある。

少子高齢化により、光友地区だけではなく、立花町全域での人口減少が進むため、平成２２年に光友地区と辺春地区の小中学校の統合を実施したが、今後も人口減が進むことが予想され、まだまだ教育環境の変動も考えられる。

人口減により、過疎化が深刻化する中、空き家が増加しつつあり、今後は地域の問題として重要視する必要がある。また、農業経営者の減少による農地放置により荒廃地が増加することが予想され、景観問題や災害問題へとなりつつある。

（２）光友地区の人口推移

人口等の推移（光友全集落の合計）

人口等の推移(集落の合計)　　（各年の 3 月 31 日現在）

	男(人)	女(人)	合計(人)	世帯数(戸)	1世帯当たり人口(人)
昭和 63 年	2,597	2,857	5,454	1,362	4.0
平成 5 年	2,529	2,784	5,313	1,390	3.8
平成 10 年	2,516	2,678	5,914	1,394	3.7
平成 15 年	2,419	2,575	4,994	1,422	3.5
平成 20 年	2,293	2,480	4,773	1,451	3.3
平成 25 年	2,155	2,334	4,489	1,480	3.0
平成 30 年	1,964	2,178	4,142	1,497	2.7
令和 4 年	1,787	1,992	3,779	1,503	2.5

集落毎の人口・世帯の推移

年 集落	昭和63年3月31日		平成15年3月31日		平成25年3月31日		令和4年3月31日	
	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯
田形	213	49	189	46	162	48	129	50
境原	152	36	125	35	115	35	93	40
四方堂	121	30	94	28	67	26	63	26
鳴瀬	186	42	166	47	152	48	129	52
久保	339	82	368	97	326	103	302	107
光友	201	48	190	47	147	48	134	50
野広尾	176	44	146	41	138	42	107	40
中通	407	94	429	120	408	127	369	135
髙山	236	50	204	49	190	52	178	51
仁合	410	85	345	81	282	83	227	88
谷川	159	40	111	33	111	34	95	32
釘崎	133	33	119	35	123	40	100	40
谷川団地	36	11	40	13	24	11	18	10
兼松	264	68	222	64	195	62	155	70
出ノ原	100	27	81	23	64	25	61	28
白土	285	74	256	78	285	91	282	105
下町※1	66	23	61	19	49	16		
後田	156	32	122	32	103	33	80	30
上町	93	22	60	19	56	17	46	20
多々良	120	32	107	35	94	32	78	33
中島	537	138	522	157	487	182	456	194
中州	242	92	165	74	181	78	154	77
草場	484	114	460	124	378	119	308	115
遠久谷	162	36	142	32	104	31	73	29
兼松団地	176	60	270	93	248	97	142	81
合計	5,454	1,362	4,994	1,422	4,489	1,480	3,779	1,503

（数字は住民基本台帳によるもので、各集落で把握されている行政区加入者数とは違っています）

※1下町は白土に編入しました

(3) 光友地区全図

①たちばな水辺公園
②八女市役所　立花支所
（八女市田崎廣助美術館）
③立花小学校
④立花中学校
⑤みつとも保育園
⑥立花ワイン
⑦立花バンブー
⑧観梅会会場
⑨道の駅たちばな

Ⓐ 矢部川堤防の桜並木

Ⓑ 八女市田崎廣助美術館

Ⓒ 唐ノ瀬井堰と社日神社

田形

田形

境原

県道
（湯辺田･瀬高線）

谷川

後田

⑧Ⓕ

兼松

黒木町

上町

兼松団地

多々良

出ノ原

遠久谷

⑨

遠久谷

3

Ⓓ 谷川寺仁王像

Ⓔ 松延家住宅

Ⓕ ワインセラー（竹あかり・未来への躍動）

３. アンケート結果と自由意見

光友地区まちづくりアンケート結果

実施日：令和4年１１月

１. 配布・回収概要

①配布方法
行政区長を通じて光友の行政区加入の全戸へ配布しました。

②回収方法
アンケートの回収は、１１月中を期限として行政区長に提出していただきました。

③配布数・回収数
光友全地区

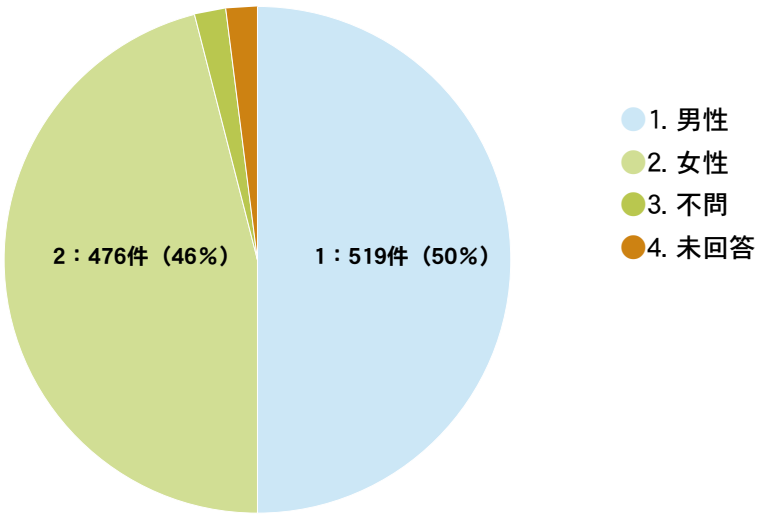
配布数	回収数	配布数
１，２７３戸	１，０５０戸	８２．４％

２. 集計結果

回答者の性別

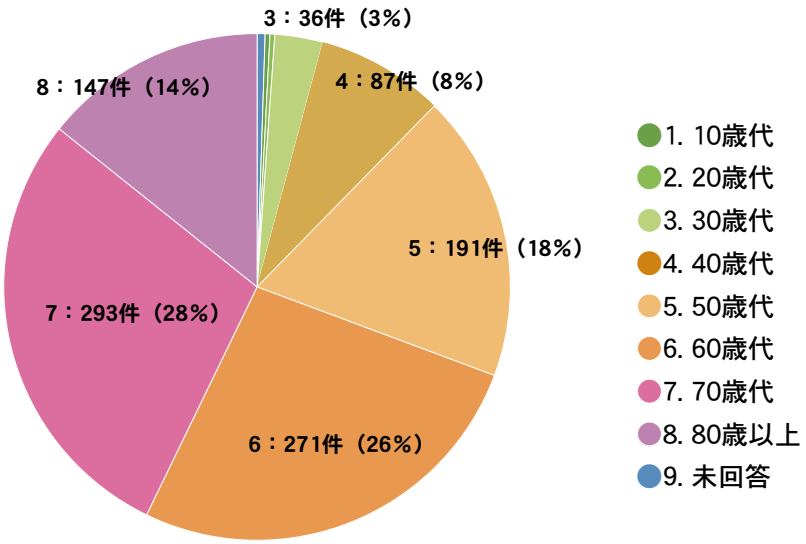
男女別では、男性が50％ 女性が46％

あなた自身についてお尋ねします。



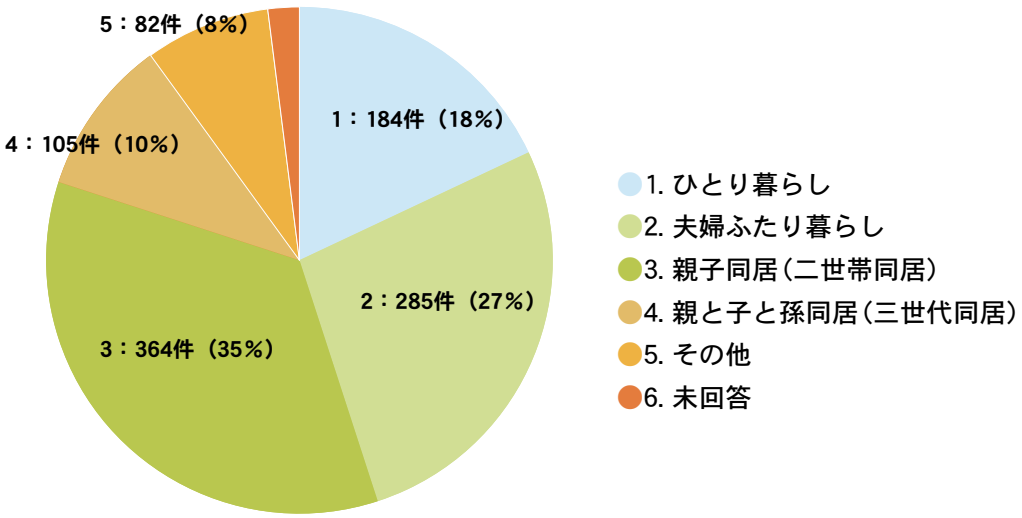
回答者の年齢層

年齢別で、70歳代が一番多く、28％　60歳代26％
50歳代18％　80歳代14％　50歳以上86％



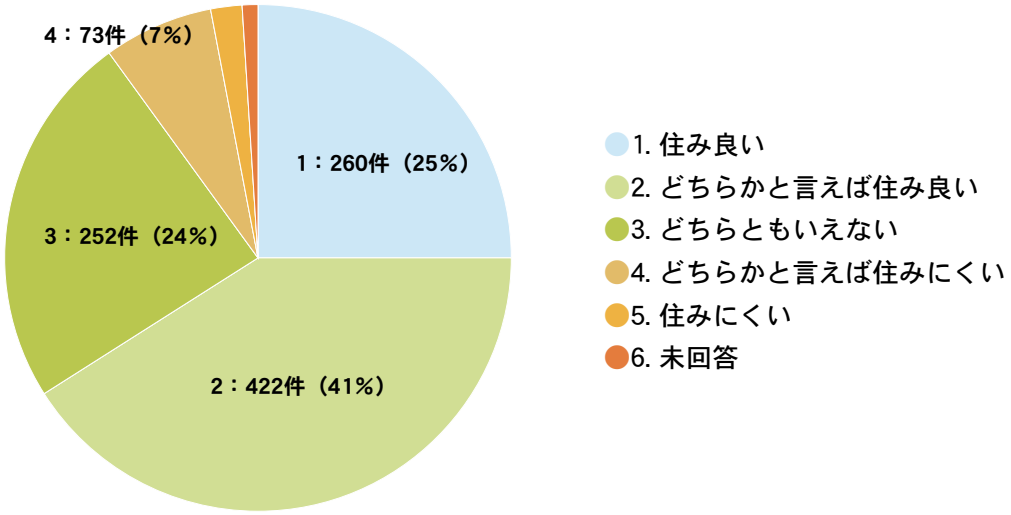
回答者の家族構成

家族構成は、親子同居35％、夫婦2人27％
独り暮らし18％



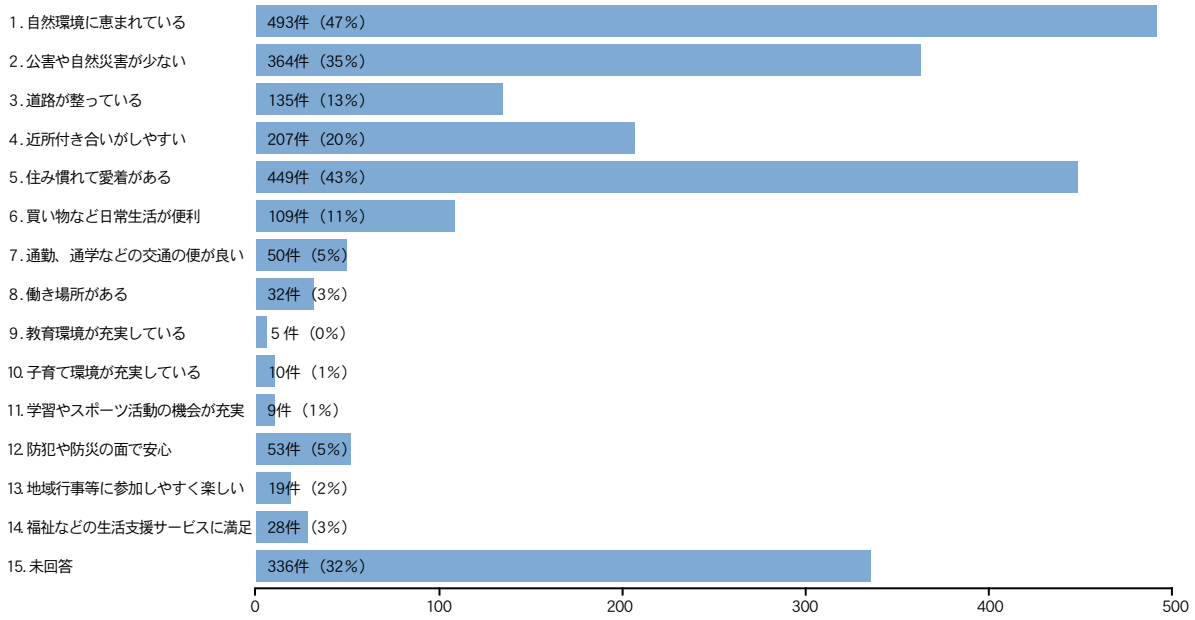
問１	あなたは光友地区を住み良いと思いますか。

どちらかといえば住みよい 41％ 住みよい 25％
どちらともいえない 24％



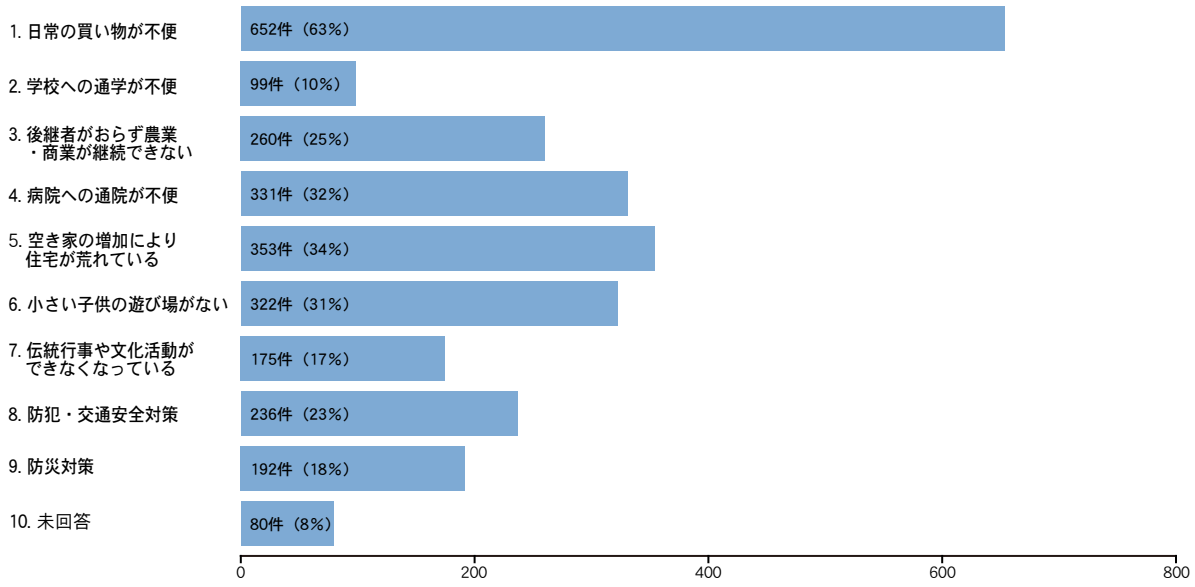
問２	問1 で「住み良い」「どちらかと言えば住み良い」と回答した方に理由をお尋ねします。

自然に恵まれている47％　住み慣れて愛着がある43％
公害や自然災害が少ない35％　近所付き合いがしやすい20％



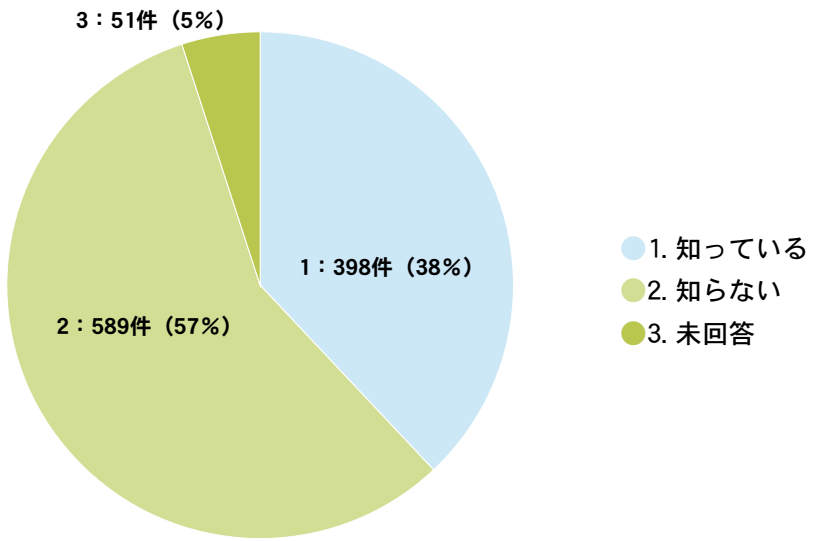
問３	光友地区で生活するうえで不便や不安を感じることは何ですか

日常の買い物が不便 63％　空き家の増加 34％
病院への通院 32％　小さい子供の遊び場 31％



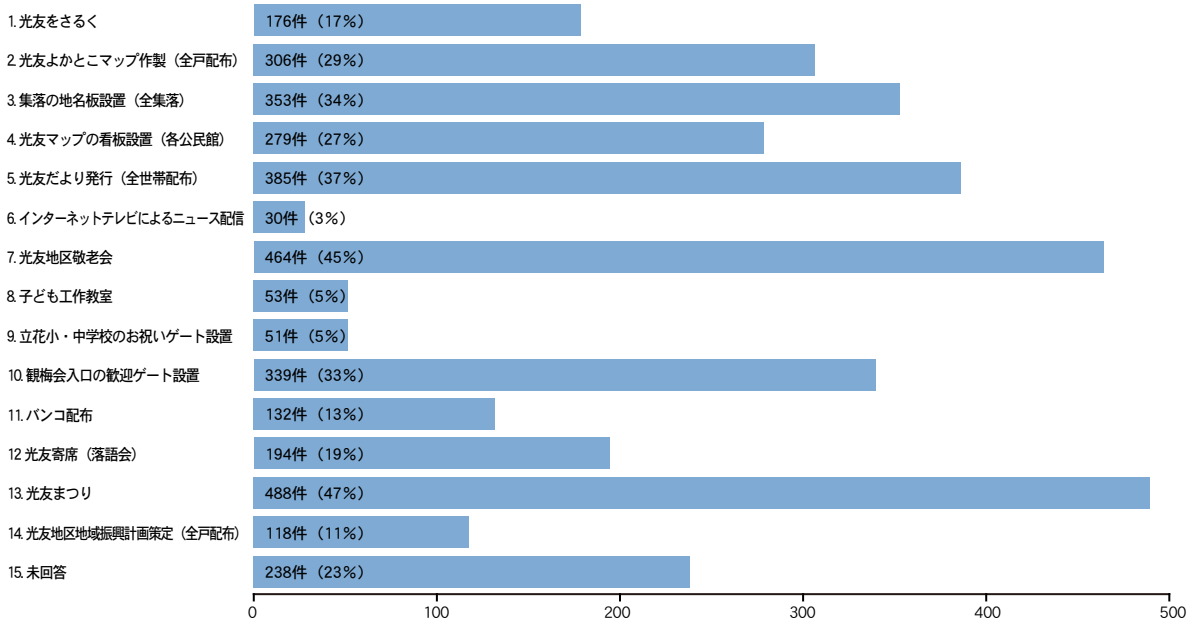
問４	あなたは「光友地区地域振興会議」を知っていますか

知らない 57％　知っている 38％



問５	あなたは「光友地区地域振興会議」発足以来、光友独自の活動や行事をご存知ですか

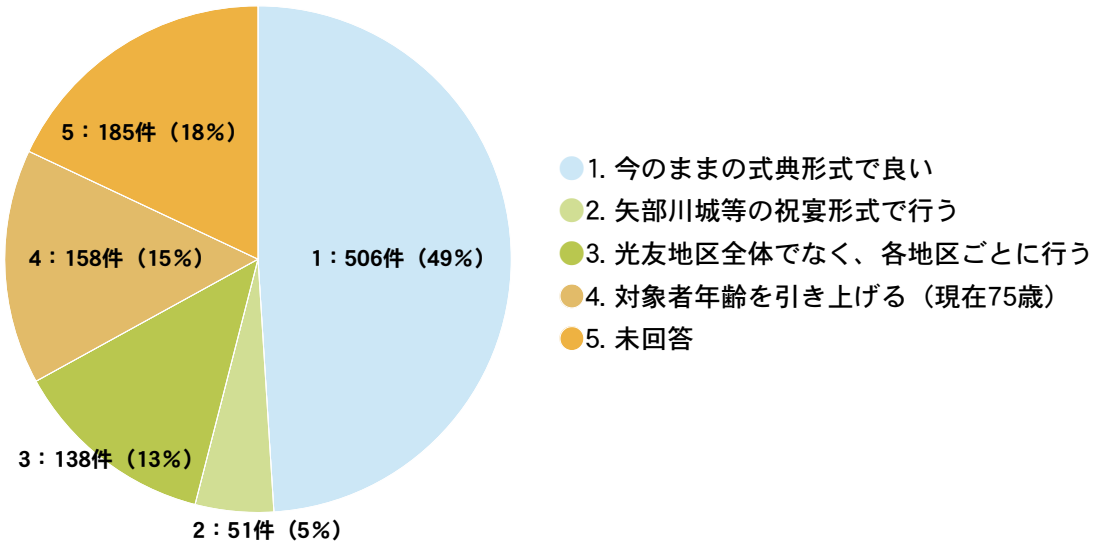
光友まつり 47％　敬老会 45％　光友だより 37％
集落地名看板設置 34％　観梅会ゲート 33％



問６	あなたは光友地区をどのようなまちにしたいですか

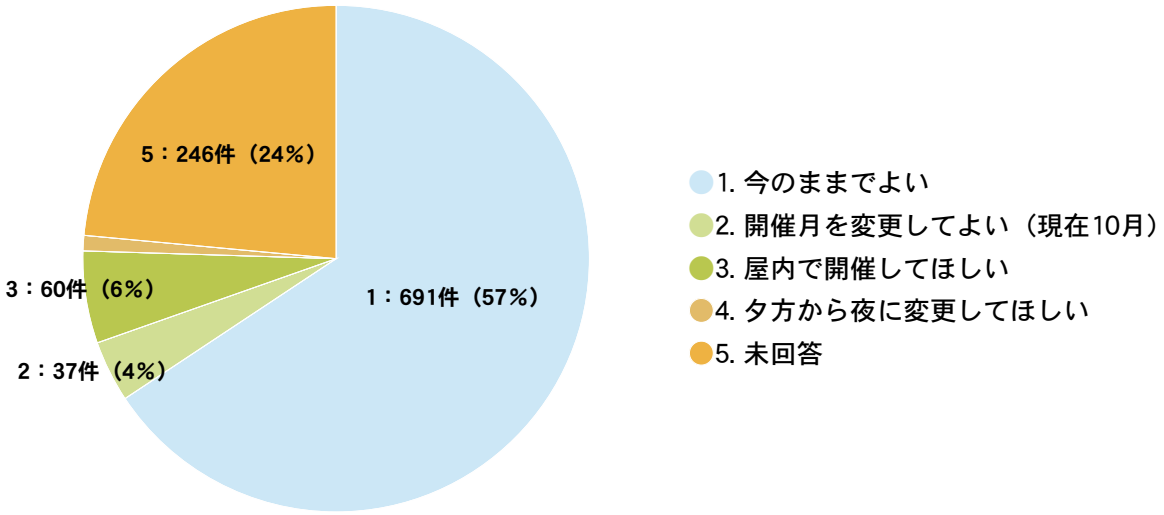
敬老会について

いまのままで 49％　対象年齢引上げ 15％　各行政区で 13％



光友まつりについて

いまのままで 67％　屋内で 6％

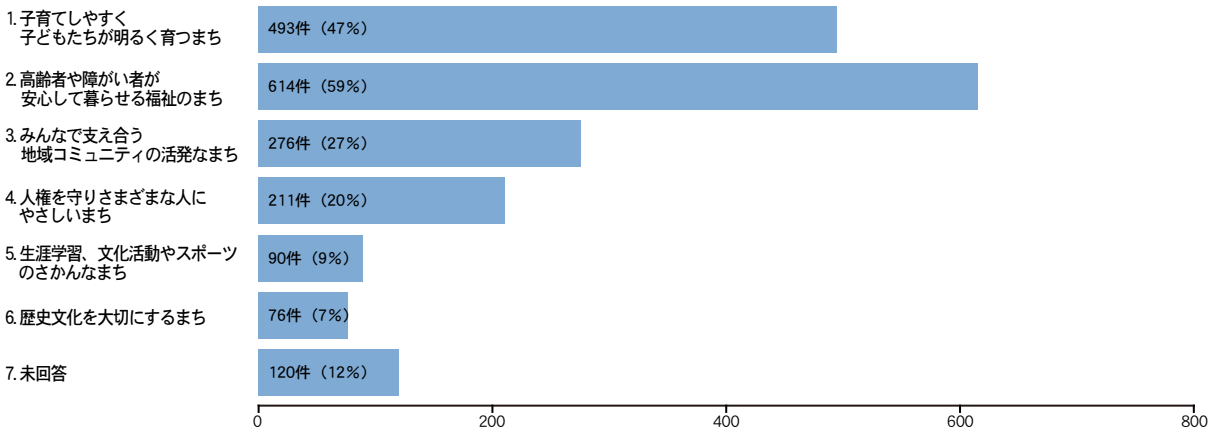


問８	あなたは光友地区をどのようなまちにしたいですか

「福祉・教育」

高齢者・障害者が安心して暮らせる 59％

子育てしやすい 47％　みんなで支え合う地域コミュニティ 27％

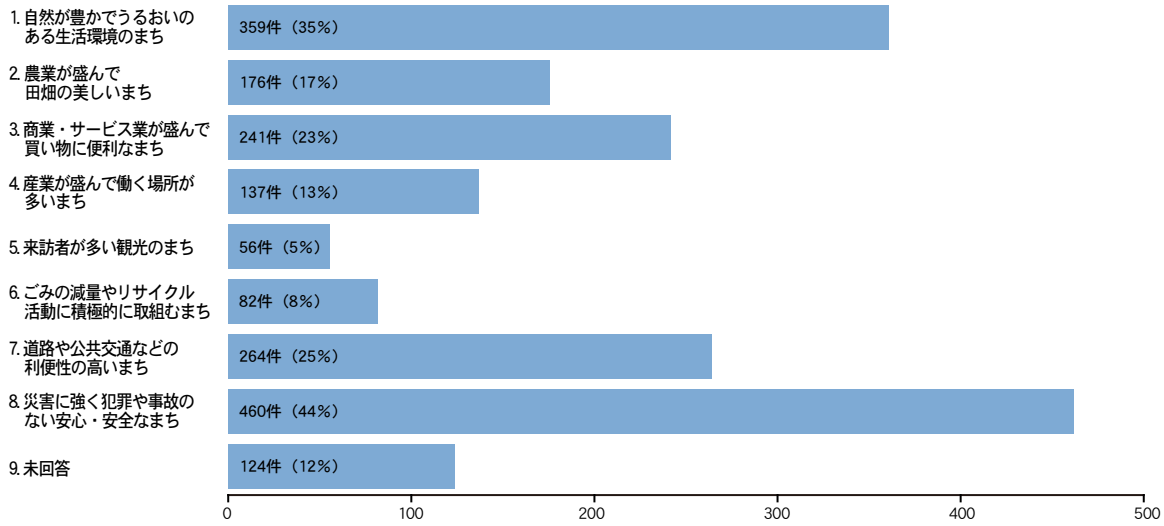


「経済・環境」

災害に強く犯罪・事故のない 44％　自然が豊かで潤いのある 35％

道路・公共交通の利便性 25％

商業・サービス業が盛んで買い物に便利 23％



皆様のご意見（アンケートより）

★各自治区に幼児と高齢者が集える公園などを作ってほしい。

★道路沿いの通学路を安全にしてほしい。瀬高線はスピード違反の車が多い、道路沿いの草が道に乗り出し歩行スペースがない。

★社会経験を活かせる環境づくりを行うとともに社会経験者自身がより青少年教育に熱心に取り組むことを啓発するような環境づくり。敬老という観点よりもその貴重な経験を地域の総力で伝承していくという行動を誘発するような環境づくり。

★若い人たちが子育てしやすいような町づくり。校舎も古く建て替えてほしい。近くに習い事ができる場所やお知らせも活発にしてほしい。

★光友地区にはアパートがなくどうしても八女市内に住むことが多く他の地区の人が住みたくても住める場所がないと移住しにくい。

★現在の光友地区は３号線が通っているだけのまち。黒木町にはあるが、光友にはコンビニ以外の買い物の場が無く、八女市まで出なければいけない。これから先生活していくには不便。高齢化率も 40％を超えており、農業ばかりに依存せず、企業を誘致し住み良いまちにしてほしい。

★黒木や星野はいきいきして見える。国道３号線をうまく活用しようという姿勢が感じられない。スクールバスがあるのだから、光友地区に 2,000 人規模の学校を創設すべき。

★公共交通機関を整備してほしい。

★働く場所の確保。

★不燃物回収が平日にあるのは働いていると出しづらい。当番のために仕事を早く切り上げないといけないので不便。

★子どもが遊べる遊具のある公園を設置してほしい。

★学校、保育園までの道が狭く、車の通りも多く危険が多い。道の拡張、時速 30㎞規制をしてほしい。

★朝の学童。小学校内での朝食、子ども食堂。子育て世代の負担軽減のため。

★下水道、光ファイバー網整備。

★中学校の校舎が古い。以前から話のあった中学校、小学校の合併について、早く実現化してほしい。安心して子供を預けられる環境を。

★子供が増えるよう、若い人の移住を促す。移住や一度外に出た人が帰ってきてもらえるような工夫が必要。

★高齢者や障がい者が道路横断中田形の道路が危ない。横断歩道を作ってほしい。

★小学校・中学校を合併して、スクールバスで通えるようにする。子どもの数が増えると運動会等も盛り上がる。

★交通の便。福祉バスの充実。

★老人世帯が増加、若者世帯が増えるような対策を。
★ボランティアの人が多くいるような地域、連帯感が持てるような光友にするための活動を。
★学校の空き教室の利用。
★買い物、病院などの施設が不足している。
★災害に強いまちづくり。
★インターネットテレビで対外的に情報発信をされていますが、更新が少ない。対外的な情報発信に予算を使うのではなく、以前開催されていた運動会や光友まつりなど地域の人が交流できる事業を実施してほしい。
★通学路の整備について。草刈りは誰がするのか？
★専勝寺～谷川寺～地主宮等の散歩道整備を。
★乗り合いタクシーが待たされることが多く、病院の予約など不便。
★企業誘致（スーパーなど）、光友地区巡回バス、JR 等までの直通バス、
★新聞テレビが取材に来るイベント、観光客が光友に住みたいと思えるものを目指すべき。
★空き家対策。
★若い人が住めるような町、住居の整備。アパートを増やす等。子供も安心して暮らせる町。
★通学路の整備。新しい公園よりも既存の公園の整備を。新しいものに目を向けるより、高齢者にも目を向けて。
★高齢の一人暮らしで日常生活はヘルパーさんに助けてもらっているが、日曜日の燃えないゴミ出しが困難。
★自然豊かな場所なので、観光客が美しい景色を求めて訪れるような場所づくりにしてほしい。
★高齢者が多いので、週に２～３回福祉車両（ふくし丸のような）巡回をしてほしい。
★旧八女市まで買い物に行くのが不便、店や移動販売車を。
★隣組長になったとき、地区で亡くなった方の名前と斎場を言って回るのが大変だった。LINE やメールで一斉送信できれば良いのに。
★食品を買える場所が欲しい。
★自由マーケットの開催（自宅でできたものの販売）。
★年々災害が増えており、避難場所の再検討をしてほしい。体育館も老朽化し安心できない。
★大型スーパー。
★多くの方に見に来ていただける場所（観光客の誘致）。
★子どもたちが安心して通学できる道路。街灯が少ない。
★立花は田舎といわれる。活性化を。
★老人福祉施設の設置。
★老朽化した空き家が増えており、自治会でも把握をして、行政と協力して対策をしてほしい。
★小中学校の統合、体育館校舎の有効活用など少子化に関する問題は出てくると思う。いろんな問題があると思うが、残っている人が生きがいを持ってハリのある生活ができれば。

★人口減少は避けられないと思う。環境、子育て対策を充実させ、農業で充分生活していける取組が必要。
★住みにくいまちになっている。
★空き家を活用して人に住んでもらいたい。
★３号線は大型車がスピードを出すので、歩道を拡張するか、自転車専用レーンを作ってもらいたい。
★湯辺田瀬高線の改良。
★振興会議の前向きな姿勢に感謝。高齢化が進んでおり、ついてくる住民も減っていくかも。新たなイベントを創設するには何かを削らないといけないかも。
★スーパーが欲しい。
★バスなど公共交通の整備。
★不燃物回収の時、一人暮らし老人は車に乗らないと行けないので回収に来てほしい。
★ドラッグストアのような何でもあり、生活に便利な店の誘致をしてほしい。
★働き場所の確保、都会への往来が便利なように。移住希望者を増やしてほしい。
★若い人の働く場所が少ない。子どもの遊び場が無い。小中学生が年々減っている。
★バスの本数を増やしてほしい。
★子供、大人が協力し合えたり、交流のある過ごしやすいまち。
★山林活用、工場誘致。
★高校、大学へ通うための交通費支援。光友の魅力発信。福祉分野での整備、人材育成。
★県道 715 号（湯辺田瀬高線）の整備。大型車が多く、ひやっとする。
★若い人を取り入れたまちづくり。
★小学校の見守り活動が手薄に感じる。見守りの方も高齢化。あいさつ運動を兼ねて地域の方々と子どもたちの触れ合う場にしてほしい。
★立花体育館に子どもの遊べる遊具、芝生がある公園が欲しい。
★水遊びできる場所を作ってほしい。
★若い人たちのために広めのアパートを。
★小中高生が放課後勉強できる場を。学校の先生 OB が勉強を教える気軽に行ける場を。
★移住希望者のため、空き家バンクの充実を。
★地域行事を減らしてほしいが今の時代に合っていない。
★中学校の校舎を新しくする。
★バス停を増やす。
★病院買い物の利便性。

4. 各種団体からのヒアリング

団体名：光友シニアクラブ

●現在の問題点

・空き家の増加

・日常の買物や通院などが不便

●今後、光友地区地域振興会議に期待すること、または問題点

・光友独自の活動及び行事を続行してもらいたい

・平均寿命は延びているが、健康寿命を延ばす工夫が必要と思われます。加齢により気力、体力が徐々に落ち要介護状態になる段階（フレイル）を予防するため健康づくりに関する活動を期待します。

団体名：みつとも保育園

●現在の問題点

ずばり問題点は、若い人が少ないこと。中学から別の地域を考える程、教育環境が整っていないこと。せっかく3号線沿いなのに通過点でしかないこと。

しかし、この地域は人が優しくて、老いも若きも人材が豊かなこと（人数ではなく）が魅力だと思います。

このような人の力を生かしていけたらいけたらいいなあ、具体的にできることから取り組みたいです。

●今後、光友地区地域振興会議に期待すること、又は問題解決案

・小、中学校を整備する計画は進んでいるので、早く実現することを願っています。人数は少なくてもよそから入ってくるような魅力ある学校つくりをすることが大事。

・専門性を持った学校を作る、また誘致する。例えば農業大学や介護を学ぶ、リハビリを学ぶ学校等。そうすると将来につながり、卒業後も地元で就職できるので。山を利用した学校・企業作りもできるのではないか。

・SHOPが欲しい。何か一つ買うのでも、夜旧八女市まで行かなければいけないので、ドラモリとかコスモスのような店が来てくれないかな。

団体名：八女市立立花小学校

●現在の問題点

学校の前の3号線には、大変交通量が多く、大型トラックもたくさん走っている。特にコンビニエンスストア（ファミリーマート）のところの交差点は、信号がなく、北山方面へ行き来する車、コンビニを利用する方の出入りがあり、危険である。また、光友地区内には狭い道路も多く、一時停止線や横断歩道等の塗料が消えかかっているところもあり、児童が安全に登下校できるかどうか、大変心配である。

●今後、光友地区地域振興会議に期待すること、又は問題解決案

朝早くから、子どもたちの登校の様子を見ていただいている地域もあり、有難く思っています。皆さんお忙しいかと思いますが、朝、子どもたちが登校する時間帯や午後3時過ぎから4時くらいまでの時間、畑仕事をしながらや、散歩をしながら等の、ながら見守り等をしていただけると助かります。

おそろいのベストやジャンパー等を着て見守りをしていただくと、交通事故だけでなく不審者からも子どもたちを守ることになるのではないかと考えます。

団体名：立花中学校

●現在の問題点

・児童･生徒登下校時の見守り隊の不足
　子供の安全面から増員をお願いしたい
・コロナ感染症による地域行事の中止

●今後、光友地区地域振興会議に期待すること、又は問題解決案

・コロナ感染症の対策をしつつ、可能であれば行事を工夫して実施していくこと
　→地域の方々と子どもたちの交流の場をつくること
・地域としての教育力
　→さらなるあいさつや声かけの徹底を

団体名：立花小PTA

●現在の問題点

遊ぶ場所は公園、広場近所とあるにはあるが、子どもたちだけで遊ばせている家庭は少なく、親の見守り、付き添いが必須でそれ（親の付き添い）がないと子どもの遊ぶ場所、時間に制限がかかる。

部活に子どもを参加させたいが、親の同伴、普段の送迎がハードルとなり、部活ができない子どもがいる。

校区外に子どもだけでは遊びにいけない。（小学校独自のルール）

地域の人口が増えない。働く場所がないからか。地域独自のルールへの抵抗感か。親同士のコミュニティツールがないからか。理由は様々だと思うが、一番は働く場所とあと公共交通機関がない。（電車）

●今後、光友地区地域振興会議に期待すること、又は、問題解決案

各遊び場に監視ではない、頼れる大人が近くにいる仕組み（子どもがケガをした時、変質者が出た時など）があるともっと子どもだけで遊べる場が活用できると思う。（子どもと大人の連携方法）

部活の送迎サービスや大人の同伴率の緩和があると参加させやすい。

校区外に行って良い環境を作る（子ども専用バス、タクシーの創出）。都心の子どもは日常でバス、電車を活用して過ごしている。

上記３つの案は子どもにとって「遊ぶ事」の選択肢、自由度をよりもって過ごせる環境をつくってあげたいと感じている部分です。親がいない所で遊ぶ場こそが子ども自身が発想を活かしたり考えて過ごす事が育まれる場になるのではと考えるからです。リスク軽減と同時に子どもにとっての環境も考えていければと思います。あと一番の課題は人口減だと思います。原因は様々だと思いますが具体的にできることを考え形にしていく（問題の解消で発案）事が必要だと思います。

団体名：八女市立立花中学校（PTA）

●現在の問題点

児童数の減少

塾などが少ないので、子供たちの学び場の提供

子育て支援

●今後、光友地区地域振興会議に期待すること、又は問題解決案

- 子供世帯への地区からの支援
  子育て世代に特化した特産品の配布や安く購入できる地産商品の斡旋など。
- 空き家などを利用した学習塾等の学び場整備
  子供たちが学習しやすい環境が少ないように思われる。そのような場所の提供など、地区の情報をまとめる。
- 卒入学式において子供たちの思い出に残る地域イベント
  子供たちが地域に根付くように、心に残るイベントがあると嬉しい。

団体名：八女市消防団立花支団第２１分団

●現在の問題点

・新入団員の減

・大規模災害（大雨等）の増による業務範囲の拡大により人手が不足している。

●今後、光友地区地域振興会議に期待すること、又は問題解決案

・光友まつり等の既存行事を継続してもらいたい

・消防団との連携を期待したい（災害時の各世帯の避難状況等の情報共有等）

団体名：民生児童委員

●現在の問題点

高齢化社会になりひとり暮らし高齢者のみの世帯がご多分にもれず増えております。然るに免許証の返納は生活面での不自由さが難題となるようです。山間部だけでなく買物難民に回遊していただける業者があればと思います。

●今後、光友地区地域振興会議に期待すること、又は問題解決案

コロナ禍での3年間、一連のまつり事業が閉鎖されていましたがようやく春の訪れと共に開催の声を聞き期待は大です。

老人会の持続不可の地域もみられ敬老会の再開を望む。

住みやすい町づくりのアンケート、町民の方が何を楽しんでいられるか集約した内容で問題解決に結びつけばと思います。

5. アンケート及びヒアリングから見えてくるもの

皆様からいただいたアンケート等を振興計画に十分反映させるために、問3の「生活するうえで不便や不安を感じることはなんですか」や問8の「どのようなまちにしたいですか」に加え、自由意見も十分考慮することが大切と思われます。また、各種団体からの意見も重視しなければなりません。

この結果、今後の課題となる事案は「日常の買い物が不便」なことや、「病院への通院」が心配されていること。また、今後増加する傾向が予測される「空き家の増加」も生活環境問題として無視できないものとなるようです。また、どのような地域を望まれているかは、「災害に強い犯罪・事故のない町」、「高齢者・障がい者が安心して暮らせる町」、「子育てしやすい町」、「自然が豊かな町」などが把握できました。

自由意見においても、少子高齢化が進む状況により、公共交通機関の問題、地域住民のコミュニティの問題等貴重な意見をいただきました。意見の中には地域振興会議ではどうしても対応できないこともありますが、地域の問題点として大切な資料として取り扱うこととします。

６. 光友地区のまちづくり基本方針

（１）地域の人々のコミュニティを大切にするまちづくり

我が国においては、人口減が年々続いており、特に地方においては顕著な状況です。私たちの八女市全体においても、光友地区においても人口減はまだまだ進んでいくことが想定されます。そのような状況のなか、高齢者世帯等の買い物問題や空き家問題など、今までになかった様々な問題が発生することとなります。その問題にどう対応し、どのように解決するかは、日頃からの地域住民のふれあいが一番大切なことです。子どもたちから高齢者までが、様々な絆で繋がり、豊かで穏やかに暮らせる地域を目指します。地域住民の知恵と工夫で地域コミュニティの強化を図り、地域の絆を強めるまちづくりを推進します。

（２）子どもたちが健やかに育ち、ふるさとに誇りをもつまちづくり

現在の子どもたちの環境は大きく変動しています。少子化による学校統合が進められてきましたが、今後も状況の変動により大きく変化することも考えられます。そういった状況のなかでも、子どもたちが健やかに育つ権利があるとともに、地域住民は子どもたちを見守る義務もあります。子どもたちは、「地域の宝」です。光友で育った子どもたちが、光友で育たったことを誇りに思ってくれるよう、安全で健やかな日々を過ごせるための環境づくりに地域住民全体で努力していきます。

（3）地域のみんなが協力し合い、防災・防犯に取り組むまちづくり

近年は地球規模の温暖化により、日本だけではなく多くの地域で自然災害が多発しています。私たちが暮らす光友地区も例外ではなく、昨今は大雨による災害や台風の強風等による災害が多くなってきています。これらの災害に対し今まで以上の危機感を持つことが必要となりました。地域の消防団員の減少、昼間に若者が少ない状態、高齢者だけの地域の増加等、多くの課題があり、人命を守るための手段を早急に検討する必要があります。公助に頼ることには限界があり、各地域で、自助・共助の体制を確立し、防災に対しての研修や訓練等を通して、災害から命を守ることが大事になってきます。防犯や交通事故への対策も必要です。特に高齢者や子どもたちを犯罪や交通事故等から護ることを重視し、今後も多様化する犯罪や交通事故対策においては関係機関との情報共有を図り、地域コミュニティを活用しながら地域の安全・安心のまちづくりを進めます。

（4）多様化する問題に対応できるまちづくり

人口の減少により、光友地区においても空き家が目立ちはじめました。空き家が放置状態になると、家屋の崩壊が進み近隣住民を危険に巻き込むこととなります。解決には様々な知識と地域住民の協力が必要となります。空き家は個人の財産であるため、容易に解決することはできませんが、現状の把握を地域全体で認識し、行政への情報提供や簡易的な対策が必要です。また、農地の放任が進んでおり、景観の面からも問題です。イノシシ等の危害も今後の問題となっていくことも予想されます。新たな問題に対し、行政や社会福祉協議会や区長会等との情報共有を図り、問題解決に向けて努力します。

光友地区地域振興計画

発　　行　令和５年４月

企画・編集　光友地区地域振興会議

八女市立花町原島 95－1

※問い合わせは立花支所総務課・光友地区地域振興会議サポーター（電話 23-5142）

※この計画書は八女市地域づくり提案事業として、市の補助金を受け作成しました。